



## 安全データシート (SDS)

## 1. 製品及び会社情報

昭和化学株式会社  
 東京都中央区日本橋本町4-3-8  
 担当  
 TEL(03)3270-2701  
 FAX(03)3270-2720  
 緊急連絡 同上  
 改訂 平成29年10月27日  
 SDS整理番号 01628331

製品等のコード : 0162-8331

製品等の名称 : 4-アセトアミドフェノール (p-アセトアミドフェノール)

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)  
 解熱鎮痛薬 など



## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性  
 自然発火性固体

: 区分外

健康に対する有害性

急性毒性(経口)

: 区分4

皮膚腐食性・刺激性

: 区分外

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性

: 区分2B

発がん性

: 分類できない

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

: 区分2(腎臓、肝臓)

環境に対する有害性

水生環境急性有害性

: 区分2

水生環境慢性有害性

: 区分2

注意喚起語 : 警告

危険有害性情報

飲み込むと有害(経口)

眼刺激

長期又は反復暴露による腎臓、肝臓の障害のおそれ

水生生物に毒性

長期的影響により水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

粉じん、ミスト、蒸気などを吸入しないこと。

取扱い後は、よく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。

眼に入った場合: 水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に

外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。

眼の刺激が続く場合: 医師の診断、手当てを受けること。

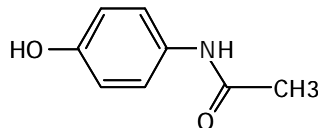
漏出物を回収すること。

【保管】

日光を避け、容器を密閉し冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。



(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

### 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	:	単一製品
化学名	:	4-アセトアミドフェノール (別名) p-アセトアミドフェノール、 N-(4-ヒドロキシフェニル)アセトアミド、 4-(アセチルアミノ)フェノール、 4'-ヒドロキシアセトアニリド、 p-ヒドロキシ-N-アセチルアニリン、 アセトアミノフェン、p-ヒドロキシアセトアニリド (英名) 4-Acetamidophenol、p-Acetamidophenol、 N-(4-Hydroxyphenyl)acetamide、 4-(Acetylamino)phenol、4'-Hydroxyacetanilide、 p-Hydroxy-N-acetylaniline、Acetaminophen、 p-Hydroxyacetanilide、Paracetamol (EC名称)、 Acetamide、N-(4-hydroxyphenyl)-(TSCA名称)
成分及び含有量	:	4-アセトアミドフェノール、 95.0%以上
化学式及び構造式	:	CH <sub>3</sub> CONHC <sub>6</sub> H <sub>4</sub> OH、 C <sub>8</sub> H <sub>9</sub> N <sub>2</sub> O、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	151.16
官報公示整理番号	化審法	(3)-678
	安衛法	4-(7)-681
CAS No.	:	103-90-2
EC No.	:	203-157-5
危険有害成分	:	4-アセトアミドフェノール ・化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) 1-335 (95%)

### 4. 応急措置

吸入した場合	:	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の診察を受ける。
皮膚に付着した場合	:	皮膚を多量の水と石鹸で洗浄する。 皮膚刺激などが生じた時は、医師の診断、手当てを受ける。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	:	直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。 まぶたを親指と人さし指で拵げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し、洗浄を続ける。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	:	口をすすぎ、うがいをする。 多量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 意識がない時は、無理に吐かせない。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状：情報なし

### 5. 火災時の処置

消火剤	:	本製品は可燃性である。 粉末消火薬剤、水噴霧、泡消火薬剤、二酸化炭素など
使ってはならない消火剤	:	棒状放水(本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。)
特有の危険有害性	:	火災中に熱分解し、刺激性又は毒性のガスを発生する可能性がある。
特有の消火方法	:	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火を行う者の保護	:	有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	:	漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項	:	河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
回収、中和	:	漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
封じ込め及び浄化の方法・機材	:	

- 二次災害の防止策 : 危険でなければ漏れを止める。  
 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。  
 : すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。  
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い**
- 技術的対策 : 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。  
 粉じん、ミスト、蒸気などの発生を防止する。
- 局所排気・全体換気 : 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。  
 安全取扱い注意事項 : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。  
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの  
 取扱いをしてはならない。  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
 取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避 : 湿気、水、高温体との接触を避ける。
- 保管**
- 技術的対策 : 保管場所は耐火構造とし、出入口は施錠する。  
 保管場所は、採光と換気装置を設置する。
- 保管条件 : 光のばく露や高温多湿を避ける。  
 容器を密閉して冷暗所に保管する。  
 必要に応じて施錠して保管する。  
 遮光した容器に入れ保管する。  
 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質 : 強酸化剤  
 容器包装材料 : ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラスなど

## 8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない。  
 許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標） :  
 日本産衛学会（2017年版） 設定されていない。  
 A C G I H（2017年版） 設定されていない。
- 設備対策 : 必要に応じて換気用の排気装置を設置する。  
 本品を取扱場所には洗眼器と安全シャワーを設置する。
- 保護具**
- 呼吸器の保護具 : 呼吸器保護具（防塵マスク、送気マスク又は空気呼吸器等）を着用すること。
- 手の保護具 : 保護手袋（塩ビ製、ニトリル製など）を着用する。
- 眼の保護具 : 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣を着用する。  
 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
- 衛生対策 : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
 取扱い後はよく手を洗う。  
 作業衣を家に持ち帰ってはならない。

## 9. 物理的及び化学的性質

- 物理的状態、形状、色など : 白色～淡黄色の結晶～粉末  
 臭い : データなし  
 pH : 5.5～6.5（飽和水溶液、20℃）  
 融点 : 166～169  
 沸点 : 分解  
 引火点 : データなし  
 爆発範囲 : 下限 15vol% 上限 データなし  
 蒸気圧 : データなし  
 蒸気密度（空気 = 1） : データなし  
 密度 : 1.29 g/cm<sup>3</sup>  
 溶解度 : 水に溶けにくい（約1.4%、20℃）。  
 エタノール、アセトンに溶ける。
- オクタノール/水分分配係数 : Log Pow = 0.49  
 自然発火温度 : 540  
 分解温度 : データなし  
 粘度 : データなし

### GHS分類

- 自然発火性固体 : 常温の空気と接触しても自然発火しない（発火点540  
 (Merck KGaA data from March 2009)) ことから、  
 区分外とした。

## 10. 安定性及び反応性

- 安定性 : 通常の取扱条件において安定である。

危険有害反応可能性 : 光により徐々に分解する。  
: 強酸化剤と混触すると激しく反応することがある。  
避けるべき条件 : 熱、日光  
混触危険物質 : 強酸化剤  
危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物

#### 11. 有害性情報

急性毒性 : 経口 ラット LD50=1944mg/kg (RTECS)  
: マウス LD50=338mg/kg (RTECS) から、区分4とした。  
飲み込むと有害(経口)(区分4)  
経皮 データ不足のため分類できない。  
吸入(蒸気) データがないため分類できない。  
吸入(粉じん) データがないため分類できない。  
皮膚腐食性・刺激性 : ウサギの皮膚にわずかな紅斑を生じるが、24hr後に消失したことから  
: 区分外とした。  
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : ウサギに適用した眼刺激性試験において、結膜炎が生じ、24hr後に  
: 3匹中2匹は結膜炎が消失したことから、区分2 Bとした。  
眼刺激(区分2B)  
呼吸器感受性又は皮膚感受性 : 呼吸器感受性 データがないため分類できない。  
: 皮膚感受性 データがないため分類できない。  
生殖細胞変異原性 : データがないため分類できない。  
発がん性 : データ不足のため分類できない。  
: IARCでグループ3(ヒトに対して発がん性について分類できない)に分類  
: されている。  
生殖毒性 : 11週間経口ばく露後のラット雄を無投与の雌と交配し、妊娠成立した雌を  
: 18日目に検査の結果、親動物の性機能および生殖能、胎児の発生に悪影響  
: は見られない(EHC 93(1989))。しかし、生殖試験の標準的プロトコール  
: でなされた試験ではなく、また催奇形性を含む仔の発生に及ぼす影響に関  
: してもデータ不足であり分類できない。  
特定標的臓器・全身毒性  
(単回ばく露) : データがないため分類できない。  
特定標的臓器・全身毒性  
(反復ばく露) : 経口摂取により腎臓、肝臓に機能障害が生じることがあることから、  
: 区分2とした。  
: 長期又は反復暴露による腎臓、肝臓の障害のおそれ(区分2)  
吸引性呼吸器有害性 : データがないため分類できない。

#### 12. 環境影響情報

水生環境急性有害性 : 甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50が、9.2mg/L から区分2とした。  
水生生物に毒性(区分2)  
水生環境慢性有害性 : 急性毒性区分2であるが、急速分解性、かつ生物蓄積性が不明のため  
: 区分2とした。  
: 長期的影響により水生生物に毒性(区分2)  
オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていない  
: ため、分類できないとした。

#### 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。  
: 都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産  
: 業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して  
: 廃棄物処理を委託する。  
: 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知  
: の上、処理を委託する。  
: 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま  
: 埋め立てたり投棄することは避ける。  
: (参考)燃焼法  
: 可燃性溶剤に溶かし、アフターバーナー及びスクラパー付き焼却炉の  
: 火室へ噴霧し、焼却する。  
汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って  
: 適切に処分する。  
: 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に  
: 処理を委託する。

#### 14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 171  
国際規制  
海上規制情報(IMDGコード/IMOの規定に従う)  
UN No. : 3077

Proper Shipping Name : ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.  
(Paracetamol)

Class : 9 (有害性物質)  
Sub risk : -  
Packing Group : III  
Marine Pollutant : Yes (該当)  
Limited Quantity : 5kg  
航空規制情報 ( ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う )  
UN No. : 3077  
Proper Shipping Name : Environmentally hazardous substance, solid, n.o.s.  
(Paracetamol)

Class : 9  
Sub risk : -  
Packing Group : III

国内規制  
陸上規制情報 ( 特段の規制なし )  
海上規制情報 ( 船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う )

国連番号 : 3077  
品名 : 環境有害物質 ( 固体 )  
クラス : 9  
副次危険 : -  
容器等級 : III  
海洋汚染物質 : 該当  
少量危険物許容量 : 5kg  
航空規制情報 ( 航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う )

国連番号 : 3077  
品名 : 環境有害物質 ( 固体 )  
クラス : 9  
副次危険 : -  
等級 : III  
少量輸送許容物件許容量 : 30kg ( 包装込みの質量 )  
特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
重量物を上積みしない。  
必要に応じ移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

#### 15. 適用法令

労働安全衛生法 : 非該当  
毒物及び劇物取締法 : 非該当  
消防法 : 非該当  
化学物質管理促進法 (PRTR法) : 第一種指定化学物質、1-335、  
政令名称「N - ( 4 - ヒドロキシフェニル ) アセトアミド」  
船舶安全法 : 有害性物質  
航空法 : その他の有害性物質  
水質汚濁防止法 : 生活環境項目 ( 施行令第三条第一項 )  
「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」  
【排水基準】160mg/L 以下 ( 日間平均 120mg/L 以下 )  
「窒素の含有量」  
【排水基準】120mg/L 以下 ( 日間平均 60mg/L 以下 )  
( 注 ) 排水基準に別途、条例等による上乘せ基準がある場合はそれに従うこと。  
指定物質 ( 施行令第三条の三 )  
「フェノール類及びその塩類」

輸出貿易管理令 : 別表第1の16項 ( キャッチオール規制 ) 第29類 有機化学品  
HSコード ( 輸出統計品目番号、2017年5月16日版 ) : 2924.29-090  
「カルボキシアミド官能化合物及び炭酸のアミド官能化合物  
- 環式アミド及びその誘導体 - その他のもの  
- その他のもの」

#### 16. その他の情報

( 注 ) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 : 化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ 化学工業日報社  
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ 化学工業日報社(2007)  
化学物質の危険・有害便覧 中央労働災害防止協会編  
化学大辞典 共同出版  
安衛法化学物質 化学工業日報社  
産業中毒便覧(増補版) 医歯薬出版

化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

---

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2012に準じ作成しています。